

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第1区分

【発行日】平成19年11月15日(2007.11.15)

【公表番号】特表2003-514753(P2003-514753A)

【公表日】平成15年4月22日(2003.4.22)

【出願番号】特願2001-539784(P2001-539784)

【国際特許分類】

C 0 1 B	31/04	(2006.01)
H 0 1 M	4/96	(2006.01)
H 0 1 M	8/10	(2006.01)

【F I】

C 0 1 B	31/04	1 0 1 B
H 0 1 M	4/96	B
H 0 1 M	4/96	M
H 0 1 M	8/10	

【手続補正書】

【提出日】平成19年9月19日(2007.9.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 8】

実施例1～5は、本発明にしたがう自然発生的な表面処理の前、および後における、種々の黒鉛材料の性質を示す。実験は、上に記述した装置を用いて行なった。使用した回転円板は、0.75mの周囲をもち、回転速度は4,800 rpmである。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 0】

実施例1～5は、本発明にしたがって処理した粉末について、スコット密度(カサ密度)および突き固め密度が、顕著な増大を見せた。処理された粉末は、まったく凝集体ができなかった。粒子サイズ分布に関する結果的な変化は、小さな摩耗効果の指標である。しかし、d値のわずかな減少は、とくに粒子の摩耗によるダストの形成により引き起こされたものである。処理された粒子の多孔組織は、表面処理によって影響されなかった。処理によって形成されたダストと粒子サイズ分布のわずかな減少とは、Lc値およびキシレン密度のわずかな減少の主たる理由であると推測される。処理された材料の弾性回復は、シャープに落下した。処理された材料を用いて圧力2.5トン/cm<sup>2</sup>で製造された成型品の圧縮密度は、シャープに増大する。BET値は若干増大したが、本発明にしたがって処理された粒子の油吸収量およびバインダー吸収量は、顕著に減少する。処理された炭素粒子の液体媒体中の分散物は、未処理の炭素粒子の分散物より、顕著に低い粘度を示した。液体炭素分散物の固形分含有量は、本発明の炭素粒子を使用することにより、5%以上増大した。本発明にしたがって処理した炭素の電気抵抗は増大した。本発明にしたがう粉末の処理の結果生じた個々の粒子の表面における等高線の変化は、走査型電子顕微鏡により、明瞭に見ることができる。